

第5回

私とみんなてつ

小学生新聞コンクール表彰式を開催
全国494校から集まった5616点の応募作品。
最優秀作品賞1点は駅ポスターにして
全国に掲出。

全国の子どもたちに鉄道をもっとよく知り、鉄道をもっと好きになってもらいたい——そんな願いから企画された『私とみんなてつ』小学生新聞コンクール。第5回を数えた昨年は、全国494校から5616作品の応募があり、厳正な審査を経て選ばれた個人賞・学校賞の表彰式が開催された。



個人賞受賞ならびに学校賞受賞の皆さんと主催者・後援者の役員



最優秀作品賞の表彰を受ける関杏花さん

最優秀
作品賞

日本民営鉄道協会
会長賞

「メープル新聞 2011年 絆 東日本大震災特別号」
東京都／日野市立潤徳小学校
関 杏花

小学生新聞コンクールには、3年生のときから毎回参加してきました。4年間の総まとめとして、今回は楽しく明るい記事を書きたいという気持ちがありました。けれども東日本大震災があり、私は、震災から何を学び、私たちに何ができるのか、考えてみるのが大切だと思いました。

あの日、私は学校にいましたが、両親は京王線の車中でした。父は体が不自由ですから、とても不安だったと思います。親切な車掌さんが励まし続けてくださり、両親は無事に帰宅することができました。この両親の体験をきっかけに、震災当日の鉄道の様子やその後の計画停電などについて調べました。地震が起きたとき、乗客である私たちがどう行動すべきかについても調べて記事にまとめました。

参加できる最後の年に、念願の最優秀作品賞を受賞することができ、とてもうれしく思っています。ありがとうございます。

『私とみんなてつ』小学生新聞コンクールは、「新聞づくり」を通じ、子どもたちの鉄道への関心と理解を深めてもらおうと企画された。全国小学校社会科研究協議会の後援を得て、平成19年から開催されており、回を重ねるごとに、総合学習や国語などの授業、夏休みの自由研究や宿題に活用する学校が増えている。ポスターなどでコンクールの開催を知り、自発的に参加する児童も少なくない。

鉄道について、興味を持ったことや疑問に思ったことを調べて新聞にまとめるには、考える力、表現する力が必要だ。教師からは、読み手を意識して分かりやすい文章にまとめることや丁寧に書くことを通じ、より高いレベルで、「自分の考えを表現する力」が身につくという声が上がっている。

第4回からは、新聞づくりはまだ難しい1・2年生を対象に「絵日記風の新聞」の受付も開始。小学生全学年を対象とした新聞コンクールにスケールアップした。その結果、第5回目を数えた昨年の新聞コンクールには、全国から494校が参加。応募作品数も5616点(5652人)と、第4回の作品数を850点近く上回る応募作品が全国40都府県から寄せられた。

いづれも力作ぞろいのこれら応募作品の中から、日本民営鉄道協会では昨年12月中旬、加盟各社ならびに全国小学校社会科研究協議会の審査委員による厳正な審査を経て、個人賞・学校賞の受賞作品を決定。1月7日(土)、受賞者13名、受賞校6校を招いて、東京會館東商スカイルームにて表彰式が開催された。



全国小学校社会科研究協議会 会長賞



「TOKYUタイムス」
神奈川県／横浜市立馬場小学校 河村夏樹

僕は小さい頃から電車が大好きで、駅や線路脇で何時間も飽きずに電車を見たり、乗ったりしているので、その恩返しとして鉄道の魅力や特長を書いてみたいと思いました。東急東横線の菊名駅の駅員さんに取材させていただきました。お客さんの安全を見守るさまざまな工夫や駅員さんの努力を知って、電車がもっと好きになりました。初めての応募でしたが、次回もぜひ参加したいと思っています。



「民鉄新聞」
千葉県／船橋市立葛飾小学校 渡邊彩音

東武鉄道は、私の住む街を走っています。その東武鉄道がいま話題の東京スカイツリーを所有していると知り、興味を持ちました。運転士さんに直接取材したり調べていくうちに、東武鉄道が乗客の安全を守るための対策にとても力を入れていることを知り、新聞は、鉄道の安全対策についてまともに見ようと思いました。前は佳作だったので、小学生最後の今回、優秀賞をいただけてとてもうれしいです。



「あぶくま急行新聞」
福島県／福島市立瀬上小学校 鎌田海里

僕は、あぶきゅうが大好きです。だから、震災で運休している間は、心配でたまりませんでした。4月になって、運休しているはずのあぶきゅうの線路の方から電車の音が聞こえてきたときは、本当にうれしかったです。コンクールは、先生にすすめられて参加しました。最初はむずかしいと思ったけど、震災に負けないで一生懸命頑張っているあぶきゅうを応援したいと思って、新聞をつくりました。



学校賞部門 日本民営鉄道協会 会長賞



愛知県／丹羽郡扶桑町立柏森小学校

総合学習のカリキュラムに、自分たちが住む地域を学ぶ「地域学習」があります。この授業に新聞づくりを活用しています。地域の駅やその他の鉄道施設を見学したり、調べたりして、文章にまとめる。新聞づくりを続けていると、子どもたちの要点をまとめる力や文章力が伸びていくのがよく分かります。

前年に続き、最優秀学校賞を頂戴し、とてもうれしく思っています。これからも、子どもたちと一緒に楽しく新聞づくりを続けていきたいと思っています。



日本民営鉄道協会 広報委員長賞



「みんてつ新聞～わたしの町～」
奈良県／堺山学園園塚山小学校 下淵可奈子

新聞づくりは学校の夏休みの宿題でした。私の家は近鉄の萩の台駅から歩いて1～2分のところにあって、家の窓からは電車が走っているのがよく見えます。幼稚園も小学校も電車で通っているので、電車は私にとってなくてはならない存在です。そんな近鉄の駅の工夫や駅員さんのお仕事の様子をみんなに知ってもらえるように、新聞にまとめました。学校では私だけ、賞をもらえました。とてもうれしいです。



「鉄道珍八景」
三重県／伊勢市立大湊小学校 湯前美優

お父さんが近鉄の電車で中吊り広告を見て「これ、いいよ。やってごらん」って、すすめてくれました。1年生のときから参加しています。テレビ番組の「ナニコレ珍百景」が大好きで、電車の面白いところを集めて作ろうと思ったんだけど、100個集めるのは大変だから8個にして八景にしました。第3回のコンクールでいここが優秀作品賞を受賞しています。今回は私が受賞できてすごくうれしいです。



最優秀作品賞を受賞した新聞はポスター化して、大手民鉄16社・地方民鉄56社の約3000駅に掲出している(3月末日まで)。

今年も7月から「第6回『私とみんてつ』小学生新聞コンクール」を実施する予定です。

子どもたちに替辞を贈った。
また、全国小学校社会科研究協議会の久保田福美会長は「昨年は東日本大震災があり、人と人をつなぐ『絆』としての鉄道の役割や安全面に着目したものが目に付き、心打たれる作品が多かった。人や地域や鉄道を大切にしている気持ちが伝わってくる素晴らしい作品が揃った。これからも、周りを見つめる目や、自分の考えをまとめて伝えたりしていくことを、日々の生活や学習の中で大事にしてほしい」と、子どもたちに替辞を贈った。

「鉄道」が人と人をつなぎ合う
表彰式では、日本民営鉄道協会の石渡恒夫会長(京浜急行電鉄株式会社代表取締役社長)が主催者挨拶に立ち、「今回も鉄道を応援してください小学生の皆さんからたくさんのお応募をいただき、大変うれしく思っている。今回の受賞が、皆さんにとってよい思い出となり、鉄道への関心を深めるだけではなく何事にも一生懸命取り組む大切さを学び、今後の成長への糧としてほしい」と、子どもたちに感謝を述べた。

- 個人賞部門 最優秀作品賞(1名)、優秀作品賞(5名)、奨励賞(7名)、佳作(21名)
- 学校賞部門 最優秀学校賞(1校)、優秀学校賞(5校)、奨励賞(5校)、若草奨励賞(5校)

最優秀作品賞・優秀作品賞・奨励賞を受賞した13作品は、日本民営鉄道協会ホームページ内サイト『みんてつキッズ』で紹介しています。
<http://kids.mintetsu.or.jp/>